

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと
III 大会前の諸準備、諸会合について 会場校の決定、地区研、事前研、資料など
V 各研究部独自の意見や要望

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項
IV 大会当日の運営や内容について 日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど

○…成果 ●…改善点及び課題
△…提案

<国語部会>

I

[新川地区]

- 研究授業はゴールイメージのもちやすい指導計画になっていたため、生徒も見通しをもって学習に取り組んでいた。
- 1学年の研究授業では、記録分の図表の役割や効果を学ばせていて、授業のよい視点となった。
- 2学年の研究授業では、ヒントカードで生徒一人一人の実態に応じた指導が行われていた。アドバイスの内容を渡す生徒の実態によって5種類準備されていて感心した。
- 研究授業では、ホワイトボードを活用して話し合いを活性化すること、生徒に見通しをもたせること、振り返りに十分な時間をとることを意識されていた。国語科としてのねらいに迫るための新しい試みがなされていて、たいへん参考になった。
- 協議会では、論点をはっきりとしていたので、しっかりとした話し合いがなされていた。また、付箋を活用して活発な発表がなされていた。時間が足りず、発表できなくても、付箋という形で授業者に意見・感想が届けられるので良かった。
- 生徒がホワイトボードを用いた話し合い活動に慣れていて、活発な意見が飛び交っていた。
- 授業観察時のシート記入と、ジャンル別フリーカード法の活用により、視点を絞った協議をすることができた。
- 提案授業が二つあったので参観しやすく、協議会での発言機会も多かった。
- 発表が映像とパワーポイントを使った分かりやすい発表であった。実践資料もあり、様子がよく分かった。
- 研究発表では、人物相関図の活用を通して文章を何度も取り入れたレポート作成により、生徒の読みが深まる実践が報告されていた。

[富山地区]

- 「学び合い」の授業に学校全体で取り組んでいる、北部中学での研究授業だったので、効果的に国語科で「学び合い」について活用している場面を見ることができた。他校でも小グループでの活動を国語科に取り入れる際に参考となる具体的な手法を見ることができて有意義だった。
- 教科書教材に加えて、魅力的な発展教材を取り入れることで生徒の追究意欲、話し合い意欲が高まった。こういう魅力的な教材の発掘、共有する機会となった。

[高岡地区]

- 3年間の表現学習を総括する学習として、示唆に富む授業であった。表現したい内容に合致する形態を考えることが研究主題に沿っており、大変勉強になった。
- 「書くこと」の集大成として、既習事項を基に、どの文章形態がふさわしいかを思考・判断する授業展開となっていた。
- 導入段階で教師自身がモデルを示し、見通しをもたせるとともに、日頃から身の回りの様々な出来事を紹介し、題材選びに結び付く掘り起こしを図っていた。
- 個人で考える機会を保証し、レイアウト用紙を用いることで完成のイメージを各自がもつことができた。
- グループでの話し合いやアドバイスタイムを通して、自分の文章を見直し、トライ・アンド・エラーができる学習環境であった。
- 話し合いでは、自分のものだけでなく他の生徒のものもよくしようとする姿が見られ、温かな人間関係を育む生徒指導の機能も果たしていた。
- 表現したい内容に合う文章形態を考えさせることによって、読み手に伝わりやすい表現方法について意識させることができていた。また、文章形態に合わせた様々な様式を用意することで、生徒の表現意欲が喚起されていたように思われた。

[砺波地区]

- 教科書の教材で学んだことを他の詩の鑑賞に生かすという流れが、生徒の学習意欲を高め、ものの見方や考え方を広げる手立てにもつながっていた。単元を貫く言語活動を意識した授業展開を学ぶことができた。
- 協議会では、6月に行われた他の地域の授業実践で解明された点について協議した。その授業を見ていなかったもので、大変学びのある協議会であった。
- 8月下旬に砺波地区の部長、授業者が集まり、指導案および発表資料の検討を行ったことは、授業・

- 発表内容を検討するとともに、その後の活動日程を共通理解して取り組むことができよかつた。
- 指導者が準備した詩の中から、生徒がグループで詩を選び、その魅力を自分たちで考え、話し合つて追究する、さらに全体でも発表し交流するという授業であつた。詩を読む視点や表現技法とその効果を調べる資料を与え、さらに、詩を拡大印刷して生徒たちが意見を付箋に書いて交流しやすくするなどの工夫が、生徒に活動する ために効果的であることを研修することができた。
 - 「表現の仕方から詩の魅力を探り、交流しよう」という言語活動を取り入れた。意見交換の場を設けることによって、自分の知識や体験と関連付けて、ものの見方、考え方を深めていた。
 - 単元の達成目標と言語活動のモデルを示すことで、生徒は、学習の見通しを抱き、主体的に取り組んでいた。

II [新川地区]

- 研究発表は、実践内容について詳しく発表していただいたが、協議する時間がほとんどなく、指導助言になつたので、時間日程を考える必要がある。
- △1 学年の研究授業について、図表に注目させるばかりでなく、本文にも注目させるべきではなかつたか。
- △2 学年の研究授業について、ヒントカードで全員の実態に応じるのは難しい。グループ活動等で補うこともできたのではないか。
- △授業者は当日に向けてたいへんな時間と労力をかけて準備している。当日の授業はもちろんだか、それまでの取組についても協議してよいと思つた。
- 2 つの研究授業があつたが、どちらか片方しか見られなかつたのでね自由に参観できるようにしてもよいのではないか。ただ、その場合は、協議会の持ち方を検討しなくてはならない。

[富山地区]

- △グループでの話合いの結果を全体で発表し合う授業だったが、出された意見同士を交換することがなかつた。今後そういうことができる計画、時間設定をすればなおいい。

[高岡地区]

- △「書くこと」の学習をする際に、最終的な発表の場を明確にし、そのための書く時間がどれだけ必要かを考慮して単元構成をしていく必要がある。
- △何を題材に書くかは、単元のねらいと照らし合わせて示しておく必要がある。

- 協議の場でも話題になつたが、これらの多様の表現をどのように評価するのが難しいと思つた。また、3 年生のこの時期に、6 時間を表現活動に充てることについての検討。
- △「私の掲示板」というテーマについて、事前に完成のイメージを知ることができればよかつた。掲示板を作ることと、文章形態を工夫することの関係性がつながりにくい。
- △生徒が記述する内容は、見学者が能動的に見にいかなければ確認することができない。見学者は当然自分達で見にいくべきなのだが、あの大人数で机間巡視をすれば、かなりの混雑が起こるものと思われる。大型テレビ、実物投影機等の機材を使って記述した内容を大きく表示できる工夫があればよいのでは、と思つた。 [砺波地区]
- △授業研究の運営、協議会のもち方はこれまでと同様に継続していくほかない。
- △主題解明のための協議会のもち方については、年ごとに工夫が必要だと考える。今年度は、協議会②で、6 月に行つた砺波地区中教研大会の授業実践で解明されたことを協議し、学ぶことが多かつた。一方、授業力向上のための講義を聴きたいという要望もある。今後も引き続き協議会の運営方法について検討する必要がある。
- △生徒が考えなくなる課題とゴールを明確にした指導過程により、生徒が見通しをもって取り組める指導計画を作成していかななくてはならない。
- △今後も生徒の相互評価、自己評価によって本時を振り返る活動を位置づけたい。

III

[新川地区]

- 新川地区の国語では2 教室同時授業なので、教師が入りきらないことはなく、参観人数が適正であつた。今後も教師が分散するようにしたい。
- △会場校で行われた資料の製本時に、司会者や発表者は参加しなくてもよいのではないか。地区研究会の時に、打ち合わせを済ませておけばよいと思ふ。
- 会場校の決定が早すぎる。部員数の少ない郡市では、次年度の異動によって大幅に変わることもあるので、次年度に決定するようにしてほしい。 [富山地区]
- △教科の中で、先々までの会場を決定しているのはいいのだが、教科ごとの計画なので、複数教科開催の学校が生じる可能性がある。そうならないように教科を超えた調整が必要と思ふ。
- 事前研修会を資料製本と兼ねて1 回少なくした。スケジュール調整が難しい時期なので、指導案作成を早めに進め、今後もそうしたい。

[高岡地区]

- △郡市により、教員数にアンバランスがあり、氷見市への負担が大変大きいと思ふ。反面、負担が軽い市もある。数年かかってもいので、是正のための話し合いの場が必要だと思ふ。
- 実質的な協議はなく、研究大会の事務連絡だけであつた。以前のように、会場校に赴き、製本等を兼ねて行う形式の方がいいと思ふ。勤務校にて事前研修会があつたが、授業をカットし、会場をしつらえるなど、勤務校では大きな負担になってしまうことの検討。

- 製本・配布のための会がありました。教諭が部長をしている場合、この時期は国語部会に関する出張が重なり、学校を空ける日が続く。できれば、製本と配布だけのための出張は省いていただきたい。

[砺波地区]

- 事前研修会は、各教科一斉に城端中学校で開催された。運営面で大変よかったので、今後もこのような体制を継続してほしい。
- 会場校の決定は各郡市に任せられている。今までは学校順で会場校が決定していた。教員数が減っている現状から人物回しを検討している郡市がある。
- △「研究大会を終えて」を各郡市部長が書く必要があるか検討。会場責任者だけでよいのではないか。

IV

[新川地区]

- オリエンテーションで質問できる時間があってもよかったのでは。
- フリーカード法の付箋に書く内容について、オリエンテーションでは説明が不十分だった。また、一人一枚ずつしか配布されなかったの、書く内容を厳選しなければならなかった。加えて話合いの視点を制限しすぎた観があり、話しづらくなったように思う。
- 役員の集合時間をもう少し遅らせてもよいのではないか。
- 役員ごとのタイムテーブルを出してもらい、たいへん動きやすかった。
- △研究発表を無くして、授業だけにすることはできないか。その分、開始時刻を送らせてほしい。
- △授業会場への会員の移動は5分前でよい。
- 1学年、2学年の2部会に分かれたので、参観者が教室に入り切れ、直接、生徒の様子を見た上で協議できたのでよかった。
- 事前に視点を絞って授業参観をしたが、絞りが障害だった。根本的なところを協議したいのに、視点が細かかった。
- 会場担当郡市で、前日のうちに、会場設営と確認をしておいたので、当日の動きがスムーズであった。
- 研究発表は、実践内容とともに生徒の様子が映像で伝えられ、とても参考になった。

[富山地区]

△県内から招いていただいたアドバイザーだったが、昼食を会場校に準備していただいたため、返って早めに足を運んでいただくことになった。近くからの講師の場合、昼食を準備しなくていいと思う。

[高岡地区]

- 「授業力向上のためのアドバイザー講義」が入ることにより、授業についての協議の時間が少なくなる。他の教科のよい運営方法があれば知りたい。
- アドバイザーの示唆に富むお話で、大変参考になった。お話しいただいたことを活かすことで、深まりのある授業になったとの声もあった。
- △今回は付箋を用いて、意見や質問を書き、拡大指導案に貼り付けてもらったことで、授業者には今後の授業に生かされるものになったが、協議自体は積極的に発言する方が少なく、若手教員を中心とし、多くの方が発言できるような工夫が必要だと思う。

V

[新川地区]

△今後も会員全員が授業会場に入って、直接、生徒の様子を見た上で協議できる形を希望する。
△出張を増やさない工夫をしたい。特に学期中は。

[富山地区]

- 富山市国語部会は部員が多いため、授業研究には2クラス以上が必要となる。本年度は都合により、1クラスでの1部会開催となったが、来年度以降は2部会にしたい。
- 「学び合い」に取り組んでいる北部中学校で、国語科における「学び合い」の授業を材料に研究できた。こういう特色ある研修に取り組んでいる学校から、教科の立場で研修をもつことはとても有意義だと思う。

[高岡地区]

△高岡市の部会では、市と県の中教研大会の授業者を若手教諭にお願いしている。そのような点を他市の先生方に理解をいただければと思う。

<社会部会>

I

<研究授業・提案発表について>

- 研究授業はパネルディベートの形式で行われた。選挙で投票する若者を増やすための方策について生徒は3つの立場に分かれてディベートを行い、終末では学習課題に対する自分の考えを書き出した。生徒は与えられた課題に熱心に取り組んでいた。
- 各自が用意した資料をもとに自分たちの考えをまとめており、学習課題を通して生徒の思考力が、また、自分たちの意見を発表することで表現力がそれぞれ育まれていると感じた。
- 選挙権が「満18歳以上」に引き上げられることになり、この時期に選挙について考えさせ、問題意識をもたせる学習をすることは、たいへん意義があり、チャレンジ的な授業であった。また、話合いを通して、選挙について興味・関心を高めることができた。
- 課題課題の解決のため、生徒自身が資料を収集・選択して、必要な情報を読み取り、自分達なりに解釈して、自分たちの考えをまとめる活動を行うことで、思考力・判断力・表現力等を高めることができた。
- パネル・ディベートの手法を取り入れることで、生徒は活発に意欲的に話し合いを行い、生徒の多面的な見方や考え方を育てることに非常に有効であった。

- 導入でパネル・ディベートの進め方を確認することで、生徒は見通しをもって、学習に取り組んでいた。
- 指導主事の先生の助言が、小学校との関連で指導いただいたので分かりやすかった。
- 授業校で、1週間前から指導案を用いて、事前に授業を展開したり、同校の社会部会や運営担当者が参観したりする機会を設けていただき、最終的な展開や資料等の検討を行った。授業者にとっては直前の変更等大変なこともあったと思われるが、よりよい資料提示の仕方や展開に改善され、当日は生徒の思考の深まりが見られた。
- 公民も地理も過去にあまり取り上げていない部分の授業であり、幹事と授業者が一緒になって創り上げることができた。
- 提案発表では、ベテランから若手に至るまで様々な実践事例が、発表校の数年来の研修課題である「学び合い」にそう形で紹介され、興味深い内容となった。
- 時代の大観の仕方を工夫し、次時以降の学習に対して関心・意欲を高めることをねらった授業展開は、今後の指導のよき提案となった。
- 資料を基に考え、資料を根拠に話し合うことが非常に意識されていた。指導者の教材研究と資料分析が、生徒の立場で(生徒の思考を想定して)行われていたことや資料を提示した際に考える視点を与えていたことが効果的であった。
- グループで話し合う前に、個人で考える時間が確保されており、自分の考えをしっかりともてるように学習活動が工夫されていた。
- 前時までの資料が精選されて掲示してあり、前時までの知識の活用をねらう意図が伝わってきた。
- 前時までの既習内容を振り返りやすいようにホワイトボードに資料が豊富に掲示されており、ワークシートに吹き出しに考えを記入させるなどの工夫が取り入れられており、生徒全員が意欲的に課題に取り組むことができるように配慮されていた。生徒たちは、農民や貴族のそれぞれの立場で多面的に思考していた。
- 1学年歴史的分野の授業を通して、鎌倉幕府滅亡の理由を、いくつかの立場に立って考えたり、学習形態を工夫したりすることで、意見交換が活発になり、生徒の思考力を深めるために効果的であった。
- 協議会では付箋紙を用いて協議を行った。この方法だと、全員の意見がホワイトボード上に位置付けられるため、課題問題の部分が明確に視覚化できる点で効果的である。また、協議会での授業者への負担が小さい点でも有効である。
- 知識と概念の構造図をつくり、単元のどの段階か、授業者が単元にどのようにアプローチしているかをビジュアルでわかりやすく示した。
- あらかじめ歴史上の色々な立場の人物となってその立場で考えさせることで生徒の多様な見方考え方を引き出す工夫に取り組んだ。
- 部会協議Ⅰで指導案を拡大コピーし、付箋を色(青、赤)分けし、よかったこと、改善点としそれを元に協議会を行った。これにより、司会進行がスムーズに行えた。
- 研究協議において、視点に基づき、グループ討議を行った。全員が意見を述べることができ、考えを共有することができた。また、3地区(高岡・射水・氷見)の部員の交流を深めることができた。
- 部会協議Ⅰでは、付箋紙を使った全員参加型の協議会が行った。短時間で主題に迫るために、授業者が示す本時の視点などに焦点を絞って、参加者の意見を集約できると考える。

<授業力向上アドバイザー事業について>

- 授業力向上アドバイザーの講義については「なるほど」と思うことが多々あり、日頃もやもやとしていたところがスッキリとした感があった。現場の教員とは異なる立場の方から、授業論を聞くということとはなかなかないので、とてもよいものだった。
- 米田先生の講義が刺激的だった。思考力とは何を育成すればよいのか、ねらいや課題の効果的な設定の仕方についてよく学べた。
- 米田先生の講義を聞き、これまでの自分の指導案作りの甘さを実感した。ポイントを絞る。すぐに実行する。また、習得と活用と大切さ、そのために必要な手立て等を再考する時間になった。
- 今回の講義は、当日の授業を受けて話をしていただいたこともあり、とても分かりやすく、また勉強になった。今後もこのような話を聞けたら嬉しく思う。
- アドバイザー講義は、今後の授業の参考になる興味深い内容であった。一方的な講義でなく、研究授業をもとに講義をしていただきよかった。
- △難しいことは分かっていますが、来年度も米田先生であれば、続けてご指導いただく機会があれば今年度のご指導の成果から、継続した研究になると思いました。
- アドバイザーの講義は、本時の授業と照らし合わせながら進められた。生徒の実態に即した指導方法や工夫、そして教師としての心構えなど、短時間で分かりやすく話していただき、とても学びが多かった。
- △思考力・判断力・表現力の育成について分かりやすく講義いただいた。ただし、評価の方法についてこれからも検討が必要である。

Ⅱ

<研究授業について>

- 研究授業では、政治に参加する若者を増やすために、「インターネット投票」や「罰金制度」などの制度面ばかりが取り上げられていた。選挙の意義について、なぜ大切なのかということ

ころに目を向けるべきだった。

△多くの生徒が授業に参加できることを意図して、パネルディベートを実践した。授業者は、生徒が学習課題に取り組む課程において、思考力や判断力が育つというねらいをもってしたが、それが達成できたかについて検討する必要がある。

●研究授業を部会協議において、議論を深めるためにもっと生かすべきだった。

●社会科は選挙民を育てる教科なので意志決定の場があってよい。ディベートである限りは、判定させるのがよいのではないかと。情報をたくさん与えて判断は生徒が行うというスタンスでいけばよい。

△改善指導案を早めに作成することが授業力向上の秘訣である。

●研究授業を2つにしてほしい。参観する教師の数を減らしたい。

△「知識と概念の構造図」について、アドバイザーから資料が提示されたが、我々の研究も必要だと感じた。

●部会協議は小グループ形式の方がよい。

●指導案の検討方法や回数、時期が難しかった。夏季休業中、北信越大会と重なったため授業者その他にとって負担が大きかった。

●授業校との打ち合わせは、メールだけではなく、電話でも確認するなど慎重に行う必要がある。

●幹事会での意見と学校での意見が交錯し、授業者に必要以上の負担をかけてしまった。

●今回の授業提案は「思考力・判断力を高める教材の開発」ではなく、「生徒の意欲を高める教材の開発」ではないかという意見もあった。社会科で求める思考力・判断力とは具体的に生徒がどのようになればよいのかを深めておかなければならなかった。

●歴史的分野の新しい取組を提案されていたが、学習活動4「律令国家を支える農民の生活は、どのように変化していくのだろう。」の時間がなく、時間配分に配慮が必要であった。

●研究協議①では付箋紙を使い、多くの参観者の発言の機会があってよかった。各グループの協議内容をもっと広めることができればさらによかった。

●歴史的分野において、未来予測をするという活動に疑問が残る。本時では、その活動に至らなかったため、協議において是非を問うことはできなかったが、本実践に基づき、各校で取り組んでいただき、結果を共有したい。

●グループ討議を行うのであれば60分でも時間がやや足りないと思った。今回のような形をとるのであれば、時間配分を検討する必要がある。

●生徒の意見を基に授業を進める際、生徒の意見を広めたり深めたりするための指導者の問い返しやグループ討議の在り方について、研究を進める必要がある。

△部会協議では参加者同士がお互いに顔を見合えるような座席配置にしたらよい。

●研究主題と授業がやや乖離していた。(副題「教材の開発とその構成」の授業になっていなかった。)

●ねらいに迫るための課題設定が適切であったかどうかは今後検討すべきである。

●「知識構造図」の作成の在り方についてさらに工夫した方がよい。

△今年度の氷見市部会の発表は、3年間の取組であった。3～4年程度の蓄積があれば、各郡市の発表もそれほど負担にならないと思う。

●部員の参加意識を高め、研究主題解明に向けた部会協議となるよう部会協議の方法を検討する必要がある。

●1学年歴史的分野の授業を通して、鎌倉幕府滅亡の理由について考えを深めさせたのはよかったが、授業の目標がはっきりせず、特に何がわかったのかという振り返りまで至らなかったため、今後改善の必要を感じた。

●付箋紙を用いた協議会の進め方として、焦点化しないと協議が進まないため、ファシリテーターの役割が重要である。また、若年層の教員も増えており遠慮気味の雰囲気も見られる。活発な議論が行われるためには、少人数のグループで行った方が効果的でないかと考える。

●授業での思考・判断・表現についての評価について、比較させたり関連づけされたりする場面が意識して設定されていなかったため、協議会での論点が焦点化できなかった。

●仮説の設定が、曖昧で、具体的な中身が示されていなかったため、検証できなかった。

●同じ人が何度も授業や発表を行わなければならない、負担が大きい。ただ、その負担を考えたためか、研究授業は一つだが、生徒の立場から考えると70名近くの参観者の中でいつも通りに授業を行うのは難しい。

<授業力向上アドバイザー事業について>

●授業力向上の講義内容はよくわかったが、実際に授業のどこをどのように改善すればよいかをもう少し丁寧に掘り下げてほしい。

△講義の中で「知識の構造図」の説明があったが、実際に書いてみるような演習があればよい。

△中教研の研究主題、サブテーマを含めて大きすぎるという指摘があった。一方で県全体で取り組むには、広いテーマを設定し、授業者の取り組みに対して柔軟に対応できるようにしておくことも必要ではないかと思う。

III

△資料(指導案集)は製本した後、郵送したらどうか。授業の調整など、大変である。

●富山市統一公開日等の都合上、製本日が遅かったこともあり、発表校に負担をかけた。袋つめであれば、集合時間を遅くすることも可能である。

●授業者は忙しい中指導案を作成し授業を練り上げると思うが、指導案検討の時間をもっと有意義にする

ために、指導案は早目に作成し、指導案検討会の前に余裕をもって検討会参加の先生方に配付されなければならない。

△指導案検討の事前研修会を増やしてもらいたい。（今後、若手の授業者が増えると考えられるため。

△研究授業、研究発表を担当する市のローテーションを考慮する必要がある。現状では、アドバイザーが高岡市の研究授業を参観する機会がなく、また、高岡市が研究発表をする機会がないため。

IV

△遠い場合、受付時間まで余裕がないので、受付開始を13:30にして欲しい。

●普通教室での研究授業は狭くてできなかったため、広い授業会場を用意してもらいよかった。

○研究授業後の協議のあり方が、授業を念頭に置きながら、もう少し研究主題を意識した話し合いができるようになった。しかし、ベテラン・中堅・若手が混じり合った少人数のグループで意見を出し合うことで、意義のある意見交換ができた。

△アドバイザー事業がない場合、協議会①は研究授業について、協議会②は研究主題を中心にワークショップ形式の協議会でもよいのではないか。

●職員の構成によっては、何度も研究授業を担当した人や、初任や2年次の教員が授業したりしなければならない。若い先生方にもチャレンジしてもらえないので、授業提案として進めていく部分もあって致し方ないと思う。

△アドバイザーが当日授業者に対して具体的な指導をしてくださる場合には、授業者と講演者との事前の話し合いなどが必要である。

V

△問題解決的な学習を行う、調べ学習や体験的な学習を取り入れる、生徒の発言をつないで授業を行うなど、生徒の主体性を育てる授業を行いたい、授業時間数に対して学習内容が多く、進度が遅れないようにすることで精一杯であるため、一斉授業による教授が中心となる場合が多くなることは否めない。授業研究では、日頃実践できないような取組を提案することも大切だが、平素の授業で生徒の主体性を高める授業の提案を行うことも必要と考える。

△地理的分野の学習の進め方について、未だ疑問や不安を感じている指導者が多いように感じる。実践の積み重ねと研究成果を共有することを考えると、授業研究は分野のサイクルを決め、地理的分野に絞って行っていくことも考えていくべきかと思う。

△本年度の研究の成果と課題が次年度に十分に生かされていないと感じる。授業研究は、研究指定校及び当該郡市部会の取組を見るという趣旨もあるだろうが、各地区の郡市の連携をさらに密にし、共同体制で研究を進めるべきと考える。そのため、各地区の研究推進委員会を開催するなどの体制づくりや県中教研社会部会の研究主題の焦点化を図るなど、工夫が必要である。

△授業者が一番大変。それをどのようにして幹事で支えていくか、授業者が必要以上に負担がふえないようにすることが必要であると思う。

●近年の中教研の流れを見ると、知識の構造図の作成、中教研テストのS P表の作成と分析、今回は思考力の育成と、つぎつぎ課題が提示されている。反面、どれも中途半端になっている感じがなめない。近年の教育学の成果を積極的に取り入れていくのは分かるが、今後の若年層の教員の増加を考えたときに、これまで中教研が積み上げてきた授業のあり方とか、もっと大切にされるべきではないかと感じる。

△研究が途切れ途切れになっている感じを受ける。（複数のアドバイザーから指摘された。）全県下のほとんどの中学校教員が加盟している大きな研究団体だから仕方のない部分もあるが、できれば次年度の研究大会会場校を10月の研究大会で決定し発表できれば、単年で研究が終わるのではないという会員の意識を保てるのではないか。

<数学会>

I

○アドバイザーの清水先生は部会協議①の授業の事後研修会にも参加され、助言をいただけることは、大変有難かった。また、協議②の講義の中にも研究授業の内容について触れていただき、非常にわかりやすかった。（新川、砺波）

○研究事業での、ラミネートしたワークシート上での思考の様子を拡大して提示する手法は、協働学習に大きな効果があると感じた。（新川）

○発表や聞く態度等、生徒の学習規律への指導が徹底されていた。（新川）

○部会協議①では、フリーカード法による協議方法が取り入れられ、参加者が視点を絞って参加することができた。（新川）

○ICT機器の使い方を提案した授業という点で大変有意義であった。（新川）

○グラフを自由にかかせた上で発問に進むという展開は、工夫されていた。（新川）

○授業者の指示が明確であり、生徒は、落ち着いて見通しをもって取り組んでいた。（新川）

○グラフを利用した問題をつくることで、よりグラフを深く読み取ろうとする生徒の姿勢が、見られた。意欲を引き出す課題設定のよい例であった。（新川）

○iPadを用いた発表は時間が短縮でき、効果的であった。（新川）

○グループ協議を取り入れたことで、先生方がそれぞれの意見を出し合って、話し合ったことで部会協議が深まった。（新川）

- 富山地区数学会には、100名あまりの部員がいるが、今回1、2、3年全学年で研究授業を実施することができたので、6月、8月の指導案検討や当日の部会協議も30名余りの人数で意見を出しやすく、有意義であった。(富山)
- 数学科部員が1、2名しかない小・中規模校では、数学科として校内研修が成立しにくい。研究大会に向けて部会で研究し、指導案を練り上げていくことは、いろいろな視点に気づかされたり、考察したりするよい機会となっている(富山)
- どの学年の授業にもグループ学習を取り入れ、「学び合い」と「体験」を重視した指導を共通の柱として研修を進めたことは全会員の共通の話題となり、成果が上がった。(富山)
- 授業は、2会場で行われたので、落ち着いて進められた。また、習熟度別の少人数授業を2会場で展開する形であったが、同フロアの2教室が会場として使用されたので移動が容易で両方の授業を参観して比べることができたことは有意義であった。(高岡)
- 2コースとも課題提示や発表の仕方(ペープサート、電子黒板)、ワークシート(項目、大きさ)、座席(ペア、小グループ)等が習熟度にあわせて工夫されており、効果的であった。自力での解決時間も十分に取られていた。(高岡)
- 習熟度別の学習において同じ題材でも扱い方に工夫されていた。題材も日常生活を連想させる問題問題で、グラフをかく、読み取る活動を通して、数理的に考察する問題として効果的であった。(高岡)
- 関数の学習を3年間、封筒から画用紙を引き出すという一貫した教材で操作活動を行っている。そのため、生徒は学び直しを容易にでき、新たな課題にも取り組みやすくなっている。(高岡)
- 学習課題の提示とともに、簡単な図を使って、等速運動と等加速度運動のイメージを掴ませたことが効果的であった。(砺波)
- 解決の手順が、黒板に提示され可視化されていたので、生徒は見通しをもって問題に取り組むことができた。(砺波)
- 線分図や言葉の式などが示されたことで、生徒は解決の方法に見通しをもつことができた。(砺波)
- 電子教科書のアニメーションを使用したことで、生徒の中に速さのイメージができた。(砺波)
- 指導案に板書計画が記載されており、授業の流れがよく練られており、展開がわかりやすかった。(砺波)

II

- タブレットを利用して生徒の考えを提示していたが、合わせて、生徒が前に出て直接考えを発表したほうがよかった。(新川)
- △ 問題づくりでは、ストーリーづくりが先か、グラフづくりが先かについてももう少し検討の余地があったのではないか。(新川)
- ICT機器の使用はメリットがある反面、生徒の意見が黒板に残らないので、その点の工夫があればよい。(新川)
- フリーカード法によるグループ協議を行ったが、15分弱と時間が短く、議論が深まらなかった。論点を具体化し、1つに絞って協議すればよかった。(新川)
- 課題と問題の違いや生徒に取り組みやすい課題の設定について今後、もう一度部会で検討してはどうか。(富山)
- △ 1年生部会では、グループごとにホワイトボードを使用した。ホワイトボードの効果的な活用、発表の仕方など今後、さらに研究しなければならない。(富山)
- △ 生徒が視覚的に捉えやすくする工夫を今後、さらに進めていきたい。(富山)
- 毎年、時期が同じなので同じ単元や、学習内容になりやすい。単元の入替えなど、工夫が必要ではないか。(高岡)
- 学校によって数学部員の数に差があり、同じように運営できない場合が考えられる。運営委員の人数の増員などで毎年、同じようにスムーズな運営ができるよう工夫していきたい。
- △ 今年度、高等学校の先生にも数名参加していただいた。参観だけであったので、率直な意見をもらうような場やアンケートがあればよかった。今後、検討して中高連携につなげたい。(高岡)
- △ 話し合い活動や発表の方法などの指導の展開ばかりではなく、扱う教材についても研究を進めてはどうか。(高岡)
- 指導案に学習課題と授業の視点が明記されていれば、研究主題との関連と授業のねらい、評価との関連がわかりやすかった。(高岡)
- △ 電子教科書の使用は効果的であったが、生徒が再度見ることができるようになるともっと効果があったのではないか。ICT使用について今後部会でも研究していきたい。(砺波)

III

- 事前の会合で研修会のすすめ方などもあらかじめ周知していたので、スムーズに研修に移ることができた。(新川)
- アドバイザーの講義があったため、北四数の発表を実施できなかったが、熱心にグループ研究された成果を聞く機会があればよかった。(新川)
- 部会責任者の計画のもと事前の地区別研究会でしっかり共通理解できて、大会がスムーズに運営できた。今後も準備段階でしっかりと共通理解して研究大会に臨みたい。(砺波)
- △ 前年度の運営についての反省が次年度にしっかり受け継がれて、改善されていくようなシステムを

構築しなければいけない。(高岡)

IV

- △ アドバイザーの講義のスライド1枚1枚の情報量が多く、切り替えが早くついていくことが難しく感じた。できれば、説明資料がほしかった。(新川)
- △ 授業のオリエンテーションの時間があればよかった。前時の授業の内容や本時の視点について確認した上で、研究授業に参加したい。(各地区)
- 部会協議①におけるグループ討議の時間が短く残念であった。参加会員のほとんどが付箋に意見を書いていたのでそれを討議する十分な時間がほしかった。
- △ グループ討議の発表を若手の教員がするようにすればよかった。
- △ 多くの参加会員が授業会場に入り、十分に参観できるよう、校内における会場選びや出入り口の窓や廊下の窓をはずすなど工夫をしてほしい。
- 会員数が増えたため、今後、会場によっては駐車場の確保が難しいと感じた。(新川)
- 運営委員の事前打合せの内容を、授業担当校の校長、教頭、教務主任の先生方に連絡して、役割分担を明確にして協力していただいたので、当日の運営に大きな問題はなかった。(富山)
- 北四研究大会に向けて事前に発表したことで、発表の仕方に関する効果や改善点等の意見が出され有意義な時間であった。(富山)
- アドバイザーの先生が前回と同じ先生で、前回の授業内容についても触れていただいた。大変わかりやすく有意義であった。(砺波)
- △ 授業力上のためのアドバイザー講義の時間を60分に設定したが、時間が足りなかった。また、授業の協議や指導助言の時間、研究発表およびそれに関する協議の時間(アドバイザーの講義があると研究発表に関する協議の時間は取れないが)が短く、時間設定が難しい。できれば、半日ではなく、もっと時間に余裕をもって、ゆっくりと研修したいと感じた。(砺波)

V

- △ 北四大会の発表については資料配付のみにし、提案授業について議論を深めるために、各部会の意見交換をする時間をとってはどうか、という意見もあるが、各地区のグループが1年間かけて、研究した貴重な発表でもあるので、各地区で発表の機会を確保していきたい。
- △ 提案授業で扱う単元は時期的なことを考えると入れ替えにくい、積極的にかえていくことで、研究の成果もより大きなものになると考えられる。

<理科部会>

I

新川地区

- ・授業全体の流れが分かるように、本時の流れを掲示したり、さまざまな掲示物を用意したりするなど事前準備がしっかり行われていた。
- ・書画カメラを活用し、時間やホワイトボードを映し出すことで、生徒が視覚的に捉えることができる工夫がされていた。
- ・学び合いでは、共通点を議論するのではなく、相違点に焦点を当てると学習課題にせまることに気付くことができた。
- ・生徒たちが主体的に課題解決に向けた追究活動の実践例は大変参考になった。年間計画の限られた時数の中で、どの単元で実施できるか見通しをもつことが大切であることを教えていただいた。生徒自身の仮説に対し、その解決に向けた実験をそれぞれのグループで行っていた実践がすばらしかった。
- ・観察、実験の結果を分析し、解釈する学習活動の時間を十分確保するために、実験操作と考察の授業を分けて行うことは、話し合い活動の活発化に効果があった。また、前時の学習内容をすぐに思い出し、学習の流れに沿って記述していけるように実験プリントの構成を工夫したことは、班での話し合い活動を円滑に進めることに効果があった。

富山地区

1年 「物質の姿と状態変化」

- ・一人に1枚ずつホワイトボードを準備してあることで、まずは自分の考えを整理し深めることができた。
- ・グループ内で話し合う場面では、それぞれが自分の考えたホワイトボードを持ち寄って話し合うことで、考えを深め合うことができた。
- ・フラスコ内の状態について、マグネットを操作しながら考えることで、多様な考え方を導き出すことができた。
- ・全体での発表の場面では、ICT機器の活用はたいへん有効であった。

3年 「エネルギーと仕事」

- ・グループで調べてみたい道具を選び、実験させたことで、生徒の興味・関心を高めることができた。どのグループも「調べたい」という意欲が感じられた。
- ・ホワイトボードの使い方、実験結果や考察を表現することに、生徒は慣れていて、普段から、自分の考えを表現する活動を授業に取り入れることが、大切である。

高岡地区

- ・見た目で判断できない金属について、体積や質量を測定してグラフ化することにより、密度の違いに気付かせながら分類する難易度の高い学習だった。生徒は、まだ密度を学習していないが、同一グラフ上にプロットされていく様子から、話し合っていた。事前にグラフを書く練習や、実験時の役割分担等をしっかりしていたため、話し合い活動の時間を確保することができた。
- ・高岡市の研修主題である「言語活動を通して、観察、実験の結果を分析し解釈する学習活動の工夫」としてのすばらしい提案と実践だった。
- ・研究大会までの準備がスムーズだった。授業者の準備はもちろん、高岡市中教研理科部会1学年部会全員が、実験班、教材分析班、学習の流れ班等に分かれて研究し、資料の準備・作成を行った。会場校の準備も丁寧にしていただき、大変助かった。

砺波地区

- ・授業者は採用20年を経たベテランであった。「生徒の思考がみえる授業」をしくみたいとの強い思いを反映させようと、事前研を2度開催した。事前研では3市の部長、南砺市の研究推進委員、会場校の理科教諭で意見を出し合った。さらに、会場校の校長が理科だったことや、指導助言の先生から事前にアドバイスをいただく機会がとれたことで、授業者の意図とする研究授業に近づいた。
- ・負荷の前後で電流の大きさは変わらないという、一見教え込んで通り過ぎてしまいそうな部分に関して、予想やモデル化、実験で確かめて話し合うなど、多くの手立てを打ってその結果を見つめたという学習過程は、日頃の指導のあり方に一石を投じる、模範的でよい研究授業となった。
- ・豆電球のソケットを安定させて実験を進めるための教材の購入、書画カメラを用いての教師演示実験、透明で平面で投影し全体に明示しやすい電流計の使用、ワークシートの工夫などは、「分析し解釈する学習活動の工夫」に大きな手助けとなった。教材・教具のちょっとした工夫は、研修を深める絶好の例となった。
- ・アドバイザーの先生は、中央の一流の研究者だけあって、本当に中身の濃い講義ですばらしかった。当日の研究授業のポイントも押さえていただき、なお有意義であった。プレゼンテーションの資料も印刷配布され、特に今年は理科の全国学力調査の年であり、その結果が出たあとの講演は時期的にもフィットしており、今後も継続していただきたい。

II

新川地区

- ・板書について、事前に準備されていたものを掲示されていた。物質がとけるときの粒子について考えるときに、粒が「分解される」「細くなる」「小さくなる」などの言葉の微妙な違いを話させるような授業展開にすると、もっと話し合いが深まる。
- ・「水に物質がとける」ことをモデルにて考えさせる場合の水に固体を入れた直後のモデルがグループ毎に異なっていた。議論すべき点を明確にするためにも、共有すべきところをしっかりと押さえておく必要がある。
- ・授業のねらいを明確にして、本時の中で生徒のどのような姿が見られることをねらいとするか、事前に予想して授業を実践できると、生徒の意見に対し、切り返し等でより深みのある授業ができる。

富山地区

1年 「物質の姿と状態変化」

- ・試験管に直接ろ紙を入れるのではなく、蒸発皿に移して火を付けた方がよかった。
- ・グループ内で発表しあう場面では、ただ話し合わせるのではなく、「お互いに考えを出し合おう」「一番納得のいく発表はどれだろう」「よりよい考えはどれなのか決定しよう」等、具体的な指示を出せば、グループ内の話し合いが深まったのではないかな。
- ・終末の振り返りを大切にするとよい。科学的概念を知っていることも大事であるが、導き出し方を身に付けることも必要である。

3年 「エネルギーと仕事」

- ・仕事の定義「仕事＝力×力の向きに進む距離」ということを、事前に確実におさえると良かった。
- ・「道具は何のために使うのか」ということを導入で押さえておくと、実験の目的が明確になったのではないかな。
- ・教師のイメージする仕事と、生徒が思う仕事にズレがあったように思う。「教師の思いと生徒の思考にはズレがある」ということを、教員は常に頭に置き、課題のねらいを押さえ、学習内容の整理をすることが大切である。

高岡地区

- ・来年度、県中教研理科部会の研究計画3年目となることを踏まえ、そのまとめとして、言語活動、観察・実験、科学的な概念を使用する学習活動の工夫について、総合的に確認する必要がある。

砺波地区

- ・モデルを書かせる時は、ある程度書き方を示さないと、イメージが広がりすぎ、收拾がつかなくなる。
- ・生徒の思考が見える授業は生徒を伸ばす授業である。生徒が主語になるような授業をこれからも組み立てていかねばならない。
- ・科学的な思考・表現の力を高めるために、言語活動をどのように位置づけるかを常に考えていかねばならない。

III

特になし

IV

研究大会当日の運営や内容について

- ・来年度、教科書が変わることに伴い、授業での取り上げ方に改善や検討が必要な内容があれば、それについて話し合いをもつことも有効と思う。
- ・いろいろな人の意見を聞くという目的で、視点をしばってグループでの協議を行ってから全体での協議会を行うことがあってもよいと感じた。(新川地区)
- ・来年度、県中教研理科部会の研究計画3年目となることを踏まえ、そのまとめとして、言語活動、観察・実験、科学的な概念を使用する学習活動の工夫について、総合的に確認する必要がある。(高岡地区)
- ・アドバイザーの講義の時間確保のため、協議会が指導助言も含めて50分間とやや短めであった。協議会は、フロアの先生方からの意見や質問が途切れないほど活発だったので、もう少し時間をとれるとよかった。(砺波地区)

V 特になし

<音楽部会>

I

1 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

- ・研究主題の解明に向けた計画的な指導が日常から行われ、その結果、ねらいや手立てを明確にした研究授業であった。特に、生徒の感性が高まり、生徒の変容が見られた点が素晴らしかった。
 - ・授業の流れが板書で明確に示されていたので、生徒は何をどのようにすればよいかを理解して授業に臨んでいた。そのため、スムーズな授業展開であった。
- ・和太鼓の授業はこれまで行われたことがなかったので、打楽器の指導の在り方を理解する上で有意義なものであった。
- ・表現活動の指導では、専門的な知識や技能のない分野であっても、表現の上手な生徒に模範演奏をさせるなどして、他の生徒の指導に生かす工夫をすればよいことが分かった。
- ・教材や教具(和太鼓、ホワイトボード、譜面台)の使い方、掲示物(リズムカード、階名シート)に工夫があった。特に、板書や掲示物、ホワイトボード等が効果的に活用され、分かりやすい授業で、今後の参考になった。
- ・授業中に「表現の工夫はこのようにすればよい」というお手本を教職員が実際に示した場面では、その表現が生徒の心に伝わり、生徒の表現に生かされていたので、このような指導方法が有効なものであることを実感した。

II

- ・ビデオや録音を毎回の授業中に撮り、生徒自身がそれを聞き比べながら表現を工夫する場面があればよかった。また、ビデオ撮影や録音を行う場合、教職員が機器の使用方法をマスターしてから授業を行うことが望ましい。
 - ・生徒に表現の工夫を考えさせるとき、どんな思いでその表現をしたいのかを明確にし、それを共有して話合うような学び合いが必要ではないか。そのための手だてがもっと必要ではないか。授業の終末における評価、授業の振り返りやまとめについては、今後も工夫が必要である。
 - ・研究授業に関する意見交換だけでなく、通常の授業に関する悩み等を話合う場がほしい。

III

1～4 現在のままでよい。

IV

1～3 特になし。

4 研究協議

- ・研究協議では、グループ討議の時間が設定されていたので、多くの教職員の意見が出され、多様な意見を聞くことができたので有意義であった。
- ・研究協議の時間が短いので、時間をもう少し長くしてほしい。
- ・中学校では、創作の指導に苦慮している教職員が多いので、土井指導主事の創作活動に関する講話や実技指導は、今後の授業に活かせるものであった。多くの資料も準備していただいたが、時間が短く、充実した指導を受けることができた。
- ・山田主任指導主事の指導助言は、資料を活用して説明があり、大変よく分かった。もっと指導を受けたい。

5 指導力向上のためのアドバイザー講義

・文部科学省の臼井調査官の講演は大変分かりやすく、音楽科の教職員として大切にしたいことがよく分かった。また、学習指導要領の説明も丁寧で、小学校から中学校へのつながりを明確にした講義であった。今後の授業に活かせる内容が多くあり、大変感動した。次年度も是非お願いしたい。

V

特になし。

<美術部会>

I

研究方法について

○授業者を昨年5月に、中新川、滑川合同で話し合い決定した。(東部)

○授業や研究協議場所はスペースに余裕があり参観・協議がしやすかった。(東部)

研究授業について

○モチーフが豊富で、当日までの制作指導がしっかりなされており、どの生徒の作品も彩色が丁寧で完成度が高く、見応えのある作品ばかりであった。そのことが、充実した鑑賞活動につながった。(東部)

○どの生徒も真剣に作品について意見交換しており、自分の作品に満足し、自信をもっていたと思われる。(東部)

○生徒が落ち着いて美術の学習に臨んでいることがよくわかった。(東部)

○作品を机といすを組み合わるという見せ方(展示の仕方)での鑑賞する方法は良く、真剣な活動につながった。(東部)

○自分の感覚を信じて大切に鑑賞してほしいという教師のねらいに沿っていたと思われ、作品に対する思いや考えを説明し合う場面が見られた。鑑賞の主体者は自分であることについて自信をもって語っていたのは、頼もしかった。(東部)

○はじめに自分なりの鑑賞を黙って行うことで、他の意見に影響されない見方ができていた。その後に話し合うことで作品に対する理解が深まっていた。(東部)

○全員の生徒の作品を生徒一人一人が評価していく方法は生徒が真剣に作品に向かいあうことができてよかった。(東部)

○終末で、生徒のこれまでの創意工夫をしたり苦労したりしたことを労い、賞賛する教師の姿が新鮮だった。忘れがちになるので見習いたい。(東部)

○教師の作品感や熱意が伝わり、美術と生活との結びつきや3年間を見通した活動の流れを伝え、心を豊かにする美術と道徳とも関連付けた授業であった。(東部)

○ベテランの先生の授業での説明の仕方や、生徒への声かけなどいろいろ学ぶことができて、とても有意義だった。(東部)

○取り組まれた題材が、よく取り組まれている題材であったことが、若手を始め、多くの部員の方に、改めて授業を見直す機会となり、効果的であったと思う。(東部)

○題材は、3色のみ水平方向のセパレートでのブックカバーづくりで、形を意図的に排除し色彩のみに焦点を当て、物語から受けるイメージや感情を表現していた。取組は斬新であり、改めて「固有の色」と「全体のイメージ」等について考え、学ぶことが多かった。(西部)

○生徒たちが互いに制作したデザインに対して、じっくりとその良さを見つめて鑑賞することができていたと思う。制作段階から色彩に対して、一人一人がこだわりを持って制作できていたからこそだと感じた。(西部)

○色彩の用語などのキーワードをあげておいたことは、生徒が自分の直感的な感じ方を大切に、感じたことを言葉で表現し、鑑賞することに効果的であった。(西部)

○同じ感情でも、物語の場面毎に受ける色彩のニュアンスが異なり、多様な感受性や美しさを感じる面白さなど、互いの感性のよさや違いを認め合っていた。(西部)

○感想を述べ合う場面では、根拠をもって発表していた。話し合いを通して、互いに話をつながげながら自分の新しい価値をつくっていた。(西部)

○色の選択や色面の構成について、自分の表現意図を発言する場面では、色の効果において〔共通事項〕を意識した発言を行っていた。(西部)

○1学期に行われた、色面構成を試行錯誤する活動を生かし、生徒は配色(色)だけでなく、面積の組み合わせ(形)を生かした美しさを工夫することきた。(西部)

○配色の面積比によって作り出される表現の意図や、色に対する各自のイメージの違いなどが、交わされた意見によって明らかになり、色の持つ表現力を学ぶことができた。(西部)

○終末で提示された既製品の配色や教師のパフォーマンスにより、日常生活に存在する色彩について再認識できた。美術と生活を結びつけた学習であり、日常生活において優れたデザインを自分の美的価値で取り入れ、生活を豊かにしようという授業者の思いが伝わり、生徒の意欲も高まった。(西部)

○本から感じたイメージを色で表現するという、色に重点を置いた題材であり、指導要領に基づき要点を押さえた取り組みに、今後の色彩指導の内容や方法について見直すきっかけとなった。(西部)

○「色」から受ける印象からや「感情」や「イメージ」を話し合う〔共通事項〕の指導内容をもとに豊かな感性を育む授業だった。研究発表資料の指導案もカラーで印刷されており、効果的であった。(西部)

○1年次から系統的に学習を積み上げてきた成果が授業に生きていた。(西部)

研究発表について

○配色カードをひし形に切って組み合わせることで、うまく着色できない生徒や色鉛筆では出したい色を出せない生徒にも、色と感情のつながりを効果的に学ばせることができることが分かった。(東部)

協議会について

○協議会で、付箋を用いたKJ法を行ったことは、意見を出しやすかった。また、自分の考えをまとめたうえで発言でき、視覚的にもわかりやすく、要点をついた話し合いができた。また、部員の考えをまとめていくことで、授業の良い点や改善点などの授業分析に役立っていた。(東部)

授業力向上のための講義について

○言語活動を目的化せずに手段として活用していくことの大切さや、様々な道筋をたどりながら生徒たちが自ら課題解決していくという、美術の良さを忘れない授業づくりをしていく必要があると改めて考えることができた。(西部)

○アドバイザーの講義では、当日の授業の写真等が取り入れられ、共通の題材で部員が学べるよい機会となった。(西部)

○子どもの豊かさをどのように深めるか、講義と結びつけて考えることができた。(西部)

II

研究授業について

●じっくりと鑑賞する時間を確保するために、全員の作品についてではなく、グループなど少人数で鑑賞させるなどするとよかった。そうすることで友達同士の、作品を通しての対話も広がったのではないかな。(東部)

●生徒の鑑賞した感想を発表する時間を確保し、生徒がどんな言葉で語るのか発表を聞いたかった。(東部)

●作品が完成しているのに、アドバイスよりも作品の良いところを言わせた方がよかったのではないかな。(東部)

●鑑賞活動の中に評価を入れるのはどうだろうか。(東部)

●5点満点評価で3点、4点が多かった。また、観点に即して評価していない生徒もいた。せっかく表に5観点が示してあったので、具体例を示し、板書して生徒に活用させたり、よいと思ったところに○を付けさせたりするとよかったのではないかな。(東部)

●生徒が生徒の作品を点数で評価するには、生徒なりの評価の観点や評価規準が確立されていないとできない。慣れるための機会を多くとらなければいけないが、少ない時数の中でどのように時間を確保していくか。(東部)

△ワークシートの生徒の評価を鑑賞の能力として教師がどのように評価するのか。評価の実例などもあれば生徒が評価する観点と教師が評価する観点が分かってよかったのではないかな。(東部)

●作品の中に文字を入れている生徒がいた。モチーフ、配色の工夫という観点から考えると今回は入れなくてもよかったのではないかな。(東部)

●作品カードの書き方が生徒によって違い、表現上の工夫について書いている生徒も見られた。モチーフの工夫や、配色の工夫について自分の思いや考えを書くということを明確にしておくとうよかったのではないかな。(東部)

△指導事項を意識した、授業を考えなくてはいけない。(東部)

●授業の話合いの形態は一斉であったが、発表があまり活発ではなかった。話合い活動における支援や工夫を行う必要がある。(西部)

●個々に異なる本を読んでおり、内容の共通理解がない中での話合いであったため、話合いの流れがスムーズでない印象が残った。話し合うための共通の土台として、本の内容紹介を事前にしたり、対象の本を数冊に絞ったりすることで活発な話合いになると思われる。(西部)

●色から感情を考え、「伝える」デザインであるが、鑑賞では指導内容の整理が難しいと感じた。個々に本が違い、また、感情を表す色彩について印象も異なり、語彙も少ないため、伝わりにくい面がある。ねらいを表現(2)で取り組むと、答え合わせのようになるため、表現(1)をねらいにして、素直に読後の感動や思いを中心にして共感を得たほうが効果的だと思われる。学習のねらい及び指導内容と方法の精選と熟慮が必要である。(西部)

●どのような視点をもたせて色彩のイメージを決めていくか、多様性のある点が問題であった。今後、イメージの広げ方を工夫することで制作の過程から鑑賞活動に至るまでさらに発展させていくことができると感じた。(西部)

研究方法について

●授業者決定の時に、紙上発表者は、研究授業と同等として考えるべきか疑問であった。以前は、大会の授業をしたあと、次の年に紙上発表をしたことがある。(東部)

●基本的なデザインに関する題材だったため、指導者に質問するなど、その指導の過程がもう少し知りたかったが、グループ討議であったためできなかった。(東部)

△来年も同様にグループ討議を行うのであれば、地区や人数のバランスも考え座席(テーブル)等決めておく事が望ましい。(東部)

△生徒が自分の中に新しい価値を創り出すための創造活動において「ねらい」の持たせ方や「言語活動」をどう捉え、充実させていくか工夫していきたい。(東部)

△鑑賞と表現の効果的な組み合わせ方やバランス、また、生徒が主体的に活動に取り組めるような手立てを工夫していきたい。(東部)

●研究協議では、色彩指導についての意見が多くなった。研究主題にせまる内容となるよう協議を進める必要があった。(西部)

△中学3年生という発達段階からすると、ブックカバーのデザインという題材は物足りなさを感じた。全3時間ほどの短時間にするか、1年時でのデザイン学習の導入で扱ってみてはどうか。(西部)

III

1

○会場校の施設を十分に活用させていただくことができた。グループ協議がメインであったので大きなテーブルは良かった。協議会場にスライドプロジェクターを設置させていただくなど協力いただいた。(東部)

●担当校に一人しか美術科教員がおらず、諸準備が大変そうであった。(東部)

2

○研究授業では中新川と滑川合同で行うことになったが、日程調整に苦勞することなく研究する場がもてたことは良かった。美術科の教員が少なくなっていく中、なるべく多い人数で集まることができたことは研究を深める観点からも有意義だった。(東部)

○5月に滑川市中教研で指導案の検討を行い、指導案の原案を決めた。その後メールで、他地区に送ってアドバイスを受けた。夏休みには、中新川郡・滑川市の合同で指導案検討を行い、県部長や部会責任者のアドバイスを受けた。(東部)

3

○事前に指導案が提案されていたので、事前に市内で話をするのができてよかった。(東部)

●発表原稿の市内での検討が、指導案製本日の間際となり、ページや印刷が統一することができなかった。(東部)

4

○開催校と開催郡市でたくさんの準備をしていただき、短時間で終わることができた。(東部)

●資料の製本作業の時間は、1時間ほどだったので、出張の開始時間を遅くしてほしい。(東部)

○製本作業の開始時間が遅めの設定だったおかげで、参加しやすかった。(西部)

IV

1

●会場が遠く、係を担当していた部員が、当日の集合時間に間に合わなかった。時間設定を考えるべき。(東部)

●9月以降、なかなか時間がとれず、発表原稿の検討会など十分に行えず、一部の先生に負担が集中した。(東部)

2

△記録用にビデオや写真などを撮っているが、今後の指導(新採研など)でライブラリーとして利用することも考え、一元管理する方法を考えても良い。現在はそのあたりが明確にされていない。たとえば中教研事務局でDVDあるいはデータとして保管するなどしていけばよいのではないか。(東部)

3

●事前に準備をしていただき、資料も作っていただいたのに、ほとんど質疑応答の時間がとれなかったのは残念。(東部)

●富山市の6月部会で、研究授業を行っていただいたものを今回発表していただいた。忙しい時期と重なり、発表者の負担が大きくなってしまった。(東部)

4

●I部の部会協議の各班の発表の時間、その後の分析の時間が十分でなかった。発表のみでなく、「シェアリング」にあたる時間を確保する必要があるのでは。(東部)

●指導助言の時間を含めると、後半が急ぎ足であった。(東部)

△東部地区の大会では、前日大会があった西部地区からの参加者もいる。発表資料もあるので西部地区の授業や部会協議の様子など話を紹介する時間があればよい。(東部)

●研究協議では、様々な角度からの検討が必要なので要点を絞って質疑することが大切である。研究主題を解明するための協議が少なくなってしまう。多くの方からの意見を集約できるような進行の工夫があればよいと思った。(西部)

○とてもわかりやすい講義なので、今後も継続して行ってほしい。(西部)

○東良調査官の講義から、活動のねらいをぶれなく設定する、課題は生徒自身が見つかるなど、改めて自分の授業を見直す示唆を与えていただいた。(西部)

V

○今回の授業は、相互鑑賞の進め方の参考になってよかった。授業時間数が少ない今、短時間で効果的に鑑賞するにはどうしたらよいのか考えさせられた。(東部)

△3年間の研究成果として、本年度、生徒作品を用いての鑑賞をしていただき、改めて鑑賞の時間の大切さを感じた。教師にとっても、生徒にとってもまとめとなる制作後の鑑賞の時間を積極的にとっていききたい。(東部)

△作品を制作する、仕上げる、よい物に作り上げる、このよさを、生徒が自信をもって披露した完成作品を見せていただいたことで改めて感じた。美術部会として頑張っていきたい。(東部)

△魚津地区では、教師が多くのクラスを一人で担当しなければいけないため、個別指導が必要な生徒に対する手立て、題材、評価の仕方にも工夫が必要である。(東部)

△美術科の教師は日頃から、美しいものに対する感性を高め、研修していくことが大切であると考え。

自ら作品を制作したり、鑑賞したりする時間を工夫して作っていきたい。(西部)

<保健体育部会>

I

【新川地区】

- ・ 課題に応じた練習ができるように、様々なインターバルの距離別にハードルが準備されていたり、ミニハードル、マーカーなどの道具が使われていたりなど、個人の課題解決のための場の設定や環境がよかった。(下新川郡)
- ・ 見やすい資料の提示がされており、特にハードル走課題解決チャートは見やすく、生徒もチャートを使って、自分の課題を確認していた。(下新川郡)
- ・ グループ内でアドバイスをし合うでは、それぞれ見るポイントが決まっていたために、具体的なアドバイスをし合うことができていた。(下新川郡)
- ・ 生徒1人につき、先生1人がついて見ていたので、生徒の様子が細かく分かった。それをもとに話し合いをすることができた。(滑川市)
- ・ グループ活動の仕方をきめ細かく決め、生徒同士の関わり合いを引き出そうとしていた。(魚津市)
- ・ 場の工夫がよかった。色々な課題への取り組みができる場であった。(魚津市)
- ・ 研究授業では、学習課題や資料の提示を工夫されていた。また、班で動作の観察
- ・ 分析を行い、コミュニケーションを図りながら課題解決をに取り組むように仕向けられていた。(中新川郡)
- ・ 生徒が課題を達成しやすいように環境作りがされていて良かった。(黒部市)
- ・ 練習内容がチャート化されたプリントとして配られており、課題にあった練習内容が選びやすくなっていた。(黒部市)
- ・ 評価の際、学習カードが観点別になっており、アドバイスを具体的に行うことができた。

【富山地区】

- ・ 武道(柔道)伝統的な考え方を理解し、相手を尊重することを大切にした授業が展開された。(富山市)
- ・ 「師範制度」という技能の習得の早い生徒に「師範」の称号を与え、「師範」がうまくできない生徒を教えていくグループ学習を取り入れた。「師範」という言葉を用いることで、より柔道らしくなり興味・関心・意欲を高めることができた。計画段階で「師範制度」という言葉に意見もあったが、若手教員(授業者)の思いや新しい発想が生かされた取組であった。(富山市)
- ・ 師範の生徒が、まず手本を見せ、自分の言葉で教え合う微笑ましい場面が多く見られた。仲間と安全に学び合い・教え合い活動をすることができるという学習目標が達成されていた。(富山市)
- ・ 部会協議②では、部員を6グループに分け、若手教員の悩み・疑問点等に対して、中堅・ベテラン教員の経験に基づくアドバイスをするなど話し合う場を設けた。活発な意見交換・情報交換ができて有意義であった。市の1月部会も同じメンバーでさらに深めていく予定である。(富山市)

【高岡地区】

- ・ 楽しい雰囲気の中で行われ、運動量も大変豊富であった。(高岡市)
- ・ 6対2のパス回しゲームは、よりよいスペースが生まれ、学習課題に迫るために効果的であった。(高岡市)
- ・ 教師と生徒の好ましい人間関係が授業の中でよく見られた。日々の実践の積み重ねが伺える授業だった。(高岡市)
- ・ 教師が習得させたい技能を明確にし、6対2のパス回しゲームを行ったことは効果的であった。コートが大きさが適当で、運動量も確保できており、生徒が意欲的に取り組むことができる工夫されたゲームであった。(氷見市)
- ・ ICTを活用し、生徒にJリーグの試合の様子を見せたことは、生徒にイメージをもたせる上で効果的であった。(氷見市)
- ・ 作戦ボードを活用し、ゲームとゲームの間に作戦タイムを設けたことは、生徒の教え合いや作戦の共有化が促進され効果的であった。(氷見市)
- ・ インサイドキックの説明に陸上ホッケーのスティックを活用したことで、理解が深まり長い距離のパスができる生徒が増えた。(射水市)
- ・ 導入でICT機器を活用し、本時の課題を分かりやすくプロ選手や前時の生徒の映像を用いて説明することで、生徒の課題に対する意識が高まった。(射水市)
- ・ 先生笑顔、生徒の視点に立った言葉かけは、生徒の興味、関心を引き出していた。(射水市)

【砺波地区】

- ・ 3年男女共習剣道の授業実践であった。10時間計画の6時間目で、「相手が面を打ってきたときにどんな技を出せばよいかを考えて練習しよう。」の課題のもと、3人1組でオリジナルの技を考え、実際の稽古で生かしてみるという展開であった。(砺波市)

- ・ 生徒の実態を踏まえた授業展開であった。昨年、一昨年度までの学習が活かされている場面や、支援を要する生徒に対して仲間が温かくかかわる場面が随所に見られた。(砺波市)
- ・ 3人1組で技を考えさせ、その技の練習をさせたことは、生徒が意欲を高め、積極的に授業に参加する上で有効であった。(砺波市)
- ・ 部会協議2では、砺波市、南砺市ともタブレットを活用した授業づくりと題した発表であった。タブレットの利点や生徒の反応の他、機器の具体的な操作方法や授業で生かせるアプリの紹介などがされた。(砺波市)
- ・ 目標を思考・判断にしたことで、生徒が応じ技に意欲的に取り組むことができた。(小矢部市)
- ・ 3～4人の小グループでの活動により、生徒同士の関わりが増えた。またグループの意見を紹介することで、さらによい技に取り組もうとする意欲を高めることができた。(小矢部市)
- ・ 有効打突の条件を工夫することで、生徒が一本を取る嬉しさを多く味わうことができ、進んで技を出そうとすることができた。(小矢部市)
- ・ タブレットPCの取り扱いについて、その効果的な方法、授業に活用できるアプリケーションを共通理解できた。PCに触る時間が長くならず、何のために利用しているかを明確にすることが大切であることが分かった。(小矢部市)
- ・ ボール運動では、タブレットPCではねらいが定まらなくなることがある。器械運動や陸上競技等の個人技能を身に付けるときには有効である。(小矢部市)
- ・ 指導案は、生徒の実態をふまえて授業が組み立てられており、大変よくできている。(南砺市)
- ・ 剣道のオリジナル技を考えさせて、練習をさせたことは生徒の意欲を高め、積極的に授業に参加させるために有効であった。(南砺市)
- ・ 生徒に対して教師が笑顔が多く、特別な配慮を必要とする生徒に対してみんなが声をかけ、その生徒がよく授業に参加できている優しく温かい雰囲気での授業であった。(南砺市)
- ・ 発表では、タブレットを活用した授業においての問題点や有効活用の方法などが紹介されて、有意義なものであった。(南砺市)

II

【新川地区】

- ・ 1グループ5人程度であったが、一人一人課題が違うために、誰の何を見ればよいのか分からなくなり、思うようにアドバイスができていなかった。グループは生活班ではなく、課題ごとがよかったのではないかと。(下新川郡)
- ・ それぞれが設定した課題と、実践練習がかみ合っていない生徒がいた。課題を解決するために、どんな練習をすればいいのか、チャートで確認したり、グループで確認したりする時間があるとよかった。(下新川郡)
- ・ VTRが準備されていたが、本時の授業ではそれを使う場面がみられなかった。ICT機器を生かすための学習過程の在り方を検討していけたらよい。(下新川郡)
- ・ 十分な協議ができなかったので時間設定の工夫が必要(滑川市)
- ・ 研究授業の協議会は深い協議ができないまま終わってしまったように感じた。また、アドバイザーの講義についても大変、参考となる内容にもかかわらず、時間の関係上、消化不良のように感じた。いずれにしても、どっちつかずで有意義ではないと痛感した。(滑川市)
- ・ 練習内容や課題の持たせ方に工夫があるとよかった。(魚津市)
- ・ 自分の動作の現状を認識するためのICT機器(タブレット端末など)活用が実践できればよい。グループ活動を中心に行っている映像(動画)を撮影し合い、運動直後に見られるようにする。(魚津市)
- ・ ICT機器をもっと活用し自分のフォーム等の確認に使えればと感じました。(中新川郡)
- ・ ICT機器が準備されていたが、活用される場面がなかった。活用方法を検討する必要がある。(黒部市)
 - ・ 生活班のグルーピングであったが、課題別のグルーピングがよかったのではないかと。課題に対してアドバイスをもらえていなかった。グループをどう作り、どのように活用していくかが課題である。(黒部市)
 - ・ 課題がチャート化され、まとまっていたが課題が多すぎた。もう少し絞った方がよかった。(黒部市)

【富山地区】

- ・ 柔道の授業は、安全面で人と人との接触が危ない。畳の上の人口密度を意識しなければならない。授業では、概ね3～4畳に1人の割合が望ましい。(富山市)
- ・ 授業では投げ技の指導がなかったが、引き手は相手の身体を守る命綱と言える。部活動と授業は、全く別物と考えての指導が大切である。相手を尊重する態度を最優先し、指導助言者にいただいた「全力で技をかけるのではなく、70%程度の力で技をかけ、残りの30%程度の力を相手の安全を守るために使う」という言葉を忘れず指導していくことが大切である。(富山市)

・ 生徒同士の学ぶ合うグループ学習を深めるためにデジタルカメラを活用したが、機器の使い方や写す角度の工夫、そして画面が小さく見えにくいといった課題もあり、ICT機器の効果的な使い方についても研修していく必要がある。(富山市)

【高岡地区】

- ・ 他者との関わりがやや少ないように感じた。(高岡市)
- ・ 相互評価の実施、兄弟チームの設定、チーム内のアドバイスなど、もっと必要だと思われる。(高岡市)
- ・ ICT機器の活用は、自分たちの動きをフィードバックさせるためにも必要だと考える。タブレット端末など高価な物に限らず、できるだけICT機器を取り入れた授業を展開していくことが大切であると思われる。(高岡市)
- ・ 指導案の記載方法(佐藤アドバイザーより指摘あり)(高岡市)
- ・ 研究協議において意見は交わされるが、発言される先生方も限られているので、アンケートなどを実施し、授業に対する感想や意見などを書いてもらおうとよいのではないか。(氷見市)
- ・ 生徒の動きたいと思っている様子を考えたとき、もう少し導入の時間を短くしてもよかったのではないか。(射水市)
- ・ 4チームすべてをしっかりと見ることは難しいが、グループの話し合いの内容に対して、適切に教師が関わるのが大切ではないか。(射水市)
- ・ アドバイスのタイミングが大切である。練習の後にアドバイスをするよりも、練習の前にした方が効果的ではないか。(射水市)

【砺波地区】

- ・ 本来3年生に求められる思考・判断力とは、1, 2年生で身につけたことを土台にして、技を考えることではないか、学習指導要領の内容をより吟味して生徒に提示する必要があるのではないか、という意見があった。(砺波市)
- ・ 評価は、課題に対する評価でないといけない。(南砺市)
- ・ 剣道場は狭いので、全員が一斉に活動すると活動場所が限られていた。半分ずつ行うとか、体育館で行うなどの工夫が必要。(南砺市)
- ・ オリジナル技を考えるということが剣道のねらいに適しているかどうか、学習指導要領をしっかりと読み込む必要がある。(小矢部市)
- ・ 指導案では、課題に対する評価が必要であることや、課題に対して本時の取組がどうであったか、生徒へのフィードバックも必要である。(小矢部市)
- ・ 教師が一人一人のよさを理解することはもちろん、生徒間でも互いのよさを共有することが必要である。(小矢部市)

III

【新川地区】

- ・ 授業の内容が早く分かれば事前研究ができる。(魚津市)
- ・ 資料の製本や配布が早ければ早いほどよいが、授業に負担がかかる。(魚津市)
- ・ 資料の製本は会場校で担当してもらえると出張が減って助かる。(魚津市)
- ・ 資料の配布をメールで行うことはできないだろうか。(魚津市)

【富山地区】

- ・ 資料の編集及び事前研修会は、幹事と授業者で3回、授業者や部会責任者が指導助言者との打合せをすることも含めると、大きな負担がかかっている。授業者のことを考えると仕方がない。(富山市)
- ・ 資料の製本や配布は、会場校には準備面で負担をかけているが、製本までしていただくとありがたい。(富山市)

【高岡地区】

- ・ 指導案の検討はなかなか時間をとれない、担当の市にお任せになってしまう。(高岡市)
- ・ 資料を製本する日も時間を合わせる事が難しい。(高岡市)

【砺波地区】

- ・ 夏休みに第1回の指導案検討会を実施したので、より深めることができた。(南砺市)
- ・ 体育的行事の日程が重複する時期であり、会場校に一任しているが、体育部会ではできれば今後もその方向でできるとよい。(小矢部市)

IV 【新川地区】

- ・ タブレット端末を使うなどの革新的な内容の授業が見たい。(魚津市)
- ・ アドバイザー講義は、大変わかりやすく説明していただき参考になった。(魚津市)
- ・ 実技講座のような形もいい(教師の指導力向上)(魚津市)

- ・ オリエンテーションで協議会の観点についてさらに説明があればよかった。（黒部市）
- ・ アドバイザーの講義は、わかりやすく大変よかったが、時間が短すぎたように思う。もう少し話を伺う時間があればよい。（黒部市）

【富山地区】

- ・ 会場校の負担軽減を思うが、幹事会では駐車場の誘導・整理や受付が限度である。会場校に会場設営等をしていただきありがとうございました。（富山市）
- ・ アドバイザーの講義は、毎年あるとありがたい。

【高岡地区】

- ・ アドバイザーが配置された場合、研究協議①、研究協議②とも、やや時間不足となってしまう。よりよい研修会にするためにも、時間の配分等を工夫したい。（高岡市）
- ・ アドバイザーにも指導案の事前検討をお願いできればと思う。（高岡市）
- ・ アドバイザーにも、当日の授業についての指導助言を多くいただきたい。（高岡市）
- ・ 当日の役割分担をもう少しはっきりと打ち合わせしておく必要があった。（射水市）

【砺波地区】

- ・ 協議会2は、南砺市、砺波・小矢部市の実践の紙上発表であった。各発表者との事前打ち合わせをより綿密に行っておくと、なおよかった。（砺波市）
- ・ 今回は6月の地区大会で「タブレットPC」を砺波・小矢部市、南砺市も共通に取り扱っていたため、意義のある発表だった。共通したものと質疑応答も活発になる。（小矢部市）

V

【富山地区】

- ・ 80名程の多くの部員が在籍している。授業者はもちろん、授業に向けての計画や準備、部会協議②の内容の工夫等をし、一人一人が授業をつくる意識や当日の参加意識を高めていけたら富山市の保健体育部会の授業スキルも向上していくと考えられる。（富山市）

<技術・家庭(家庭)部会>

I

(東部)

①研究授業

○授業を見る前に授業が見える素晴らしい指導案だった。部会で協力して、みんなで作りあげたところもあり、組織の大切さが感じられた。

○場面絵や吹き出し、ワークシートやマグネットシート、ゲストティーチャー等盛りだくさんであったが、一つ一つがしっかりと活用され効果的であった。

○ゲストティーチャーの活用が効果的で、具体例を挙げて話される専門家の言葉には説得力があった。

○終始温かい雰囲気の中で授業が展開され、グループや全体の中で自分の考えをしっかりと発表する生徒の姿がよかった。

②研究発表

○実習やレポートなど家庭科の実技要素が十分に生かされた実践であり、発表が分かりやすかった。

○パワーポイントにいろいろな工夫が見られ、研究の積み重ねが伝わる聞き応えのある発表だった。

○実物を用意し、生徒が手にとって見られるようにすることで、生徒の実感に伴う理解となり自分の生活に結びつけることができることを再確認できた。

○50分間の授業に集中し、最後まで興味・関心をもって取り組む生徒の姿がよかった。前半の学びが後半のグループ活動に生かされており、授業の高まりがあった。

○生徒の視覚に訴えるもの、生徒が活躍できる場、分かりやすい資料があり、生徒が集中して取り組むための手立てが有効に働いていた。

○授業の終末には、家庭での実践の課題を提示しており、学習したことを実践につなげるための有効な投げかけとなっていた。

(アドバイザーによる講義)

○家庭科が様々な教育的要素を内包していることを再確認することができ、家庭科教員としての責任と可能性の大きさを改めて感じる事ができた。（東部）

○家庭科の指導内容にストーリーをもたせることが生徒の視点を広げ、課題意識を深めることにつながる事がよく分かった。授業づくりに大いに生かしたい。（東部）

○生徒の学びを深めるチャンスはいろいろなところにあることを再認識した。実践に生かそうと思う。（東部）

○家庭科が世界標準の能力を育てる教科であることを分かりやすく説明していただいた。問題解決的な学習の大切さを改めて感じた。（西部）

○時数の少なさからどのようにすすめていけばよいか悩むことも多かったが、問題解決をしながら基本的な内容を組み込んでいく工夫をしてみようと思った。（西部）

○大変分かりやすいお話であり、家庭科の重要性を再認識できた。授業へのヒントもたくさんいただき

た。これから自信と誇りをもって取り組んでいきたい。(西部)

II

- 言語活動については、問い返しの発問が効果的に使われていたが、求めすぎると教師とその生徒だけの授業になる恐れがある。その兼ね合いを加減し言語活動を充実させた授業にしたい。(東部)
- 幼児の発達段階を考慮した接し方に気付くことをねらいとするのであれば、遊びにおける発達段階の例を交えたり、ゲストティーチャーと場面分析を共に行ったりするなど、より具体的に深めてもよかったのではないかと。(東部)
- 50分という限られた時間の中で身に付けさせたい事項を精選し、本時の指導過程を組み直すことで、もっと本時がすっきりとし、学習内容の定着につながるのではないかと。(西部)
- 板書やワークシートの工夫により、生徒の思考を助けたり見通しをもって学習に取り組ませたりすることができたのではないかと。(西部)
- 普通教室に全会員が入るのは、生徒の集中力を欠くことになると感じた。もう少し広い場所の方がよかったのではないかと。(東部)(西部)

III

- 大会前の諸準備、諸会合について(特に問題点や要望があれば)
- 担当校で資料の製本をしてくださっており大変助かった。(東部)(西部)
 - 各地区の部員数が少なくなっており、前日の会場や授業の準備にも人手が必要である。協力するために出張に出やすいようにしていただけるとありがたい。(西部)

IV

- 運営分担を決めていたはずだったが、機能していない部分があった。到着時刻や到着後の案内・誘導、駐車場、湯茶係等の動きの意識が低かった。(東部)
- 研究授業に研究発表、講義と盛りだくさんすぎて消化不良になってしまった。(東部)
- 授業の協議の方法を工夫できるとよい。時間が短かったこともあるが、質疑が少なかった。授業のよいところだけではなく課題についてもしっかりと話し合うことで、より深まりのある研修になるのではないかと。(東部)
- 授業校が遠くオリエンテーションに間に合わせるのが大変だった。もう少し開始時間を遅くするなど時間的なゆとりがある日程だとありがたい。(西部)

V

- 各研究部会独自の意見や要望
- △地区の部員数が減り、研修の深まりや活発な意見交換の機会が少なくなっている。そのため、研究大会は有効な研修の機会である。今回は部会協議②は授業力向上アドバイザーの講義であったが、これからはこうした講義や附属中学校での授業風景や実践の紹介など、新しい情報や技術を学ぶ場になればありがたいと思う。(西部)
 - △部員数が少なく家庭科部員のほとんどが特別支援部会に所属するという市の研究部会の実態を考えると、研究組織としては十分な研究ができないという不安がある。郡市の研究大会の日を調整するなどして、郡市合同の研究部会の機会を増やすなど、研究組織の在り方を考える必要がある。(西部)
 - △部員数の減少により地区での授業が2回目、3回目の教員も出てきている。何とか負担軽減が図れないかと。(西部)

<英語部会>

I

- グループ討議では、あらかじめ指定された5～6人の班で「意欲的に」をキーワードに日々の実践を紹介しあった。新たな発見や実践の再確認のでき、有意義な教師の学びの時間になった。(新川)
- 「書くこと」の意欲を高める活動や課題提示の仕方の工夫について意見交換をした。伝える相手をきちんと意識させたり、生徒にとって必然性のある課題を設定したりすることが大切だと再認識した。(新川)
- 研究授業で、前時の復習及び本時の導入のために行われたWatching Testは、身近にいる先生の出演により、生徒の理解を助けていた。(新川)
- 子どもの実態を踏まえた上でスモールステップを踏んで学習が進められるように活動が組み立てられておりどの生徒の授業に参加できていた。また、CAN-DO形式で本時の目標が明示されており、生徒は見通しをもって学習することができた。学習規律もしっかり定着していた。(新川)
- 前年度、学力向上アドバイザーの田尻先生からいただいたアドバイスを生かし、早めに指導案が各郡市に届いたため、事前に検討することができた。(新川)
- 研究授業のオリエンテーションで授業を見る視点を明らかにすることによって、事後研究部会での小グループでの話し合いを効果的に進められるようにした。また、どの部員も意見を述べる機会が得られたため、より積極的に参加できた。いろいろな意見を聞くことによって自分と違う視点に気付くことができるなど、良い意見交換の場になった。

(富山)

- 研究発表では、ICTの活用やクラスルームイングリッシュの使用率の高さ等、授業者に積極的な工夫が見られ、参観者に大きな刺激になった。(富山)
- 授業力向上アドバイザーの講演では、国研からお招きした平木先生から直に、今後の英語教育の視点になるような講話を聞くことができた。参加者からも大変良かったという校が多く聞かれた。(高岡)
- 黒板と電子黒板の平行利用など、ICTが効果的に活用され、生徒活動が活性化されていた。また、少人数の利点を生かし、一人一人により丁寧な指導を行うことで、生徒の学習意欲を引き出していた。(高岡)
- それぞれの活動の目標を生徒に提示し活動後に評価することや、本時のねらいに向けて段階を踏んで学習活動がつながる展開を工夫すること、単元構想に基づいた生徒の関心・意欲を高める学習課題の設定などが、生徒に自信を付け、学習意欲を高めるために効果的だった(高岡)
- 協議会では、視点を設けたグループ協議を取り入れたことで、各会員が共通の意識をもち、活発に意見交換を行うことができた。(高岡)
- 外国人からの手紙を読み、返事を書くという南砺市の研究主題である「読むこと」から「書くこと」への活動のつながりを見据えた課題が設定されていた。(砺波)
- ICTを効果的に活用する場面がいくつも見られた。パワーポイント、ビデオ、実物投影機などが手際よく、自然な流れで使用されており、生徒の学ぶ意欲を高めていた。(砺波)
- 紙面による研究発表では、県の研究主題をもとに南砺、砺波両地区がそれぞれ研究主題が細かく焦点化していたため、議論に深まりが出た。(砺波)
- 協議会では付箋を使い、良い点と改善点についてグループ協議をした。一人一人が積極的に意見を述べ、意欲的に参加する姿が見られた。また、グループの協議内容を報告する場を設けたため、より幅広い視点からの意見を聞くことができ、有意義であった。(砺波)

II

- 評価規準を設定する際、誰もが簡単に達成できるものでよいか検討が必要である。(新川)

- 授業後の事後協議会の運営を工夫する必要がある。どうしても時間不足になる。(新川)
- △各会員の思いを伝えるために、授業者へのアンケートがあればよかった。(新川)
- △部会協議①のグループ協議のとき、授業者が各グループを回ると、質問しながら討議ができるのでよいと思う。(新川)
- 毎回、同じ時期に研究大会が行われるため、研究授業を行う範囲が限定されてしまうことが多い。また、授業がグループでの活動とその発表になることが多い。授業の最後に、学力の定着という面から、個々の理解がどのくらい達成されたかを確認する活動も必要ではないかと考える。実践的であり、且つ、学力の定着を図るためにはどのような授業展開が有効なのか再考する必要がある。(富山)
- 授業後の協議会に時間が十分にとれず、全体で協議内容を深めることが難しい。協議会の進め方の工夫や、もう少し時間を長くすることなどにより、授業者、参観者双方にとってより有意義なものにしていきたい。(高岡)
- 会場校や授業者の負担をなるべく軽減したいと考えて準備を進めたが、十分にできなかったことも多かったように思う。早めに会場校と英語部会の役割分担を明確にしておくことが大切である。(高岡)
- △先生方の名札の着用を徹底していただけるとありがたい。(高岡)
- 毎年のことではあるが、研究授業は念入りの準備がなされているので、参観しても自分の授業に取り入れることが難しい。教師の負担がそれほどなく日頃から実践していけるような授業を見せていただくと大変参考になる。(高岡)
- △発展コースと基礎コースの違いをもっと明確にするとよい。発展コースはもっと高いゴールを設定してもよいのではないかと。(高岡)
- △授業会場が狭かったので、特別教室等余裕のあるスペースで行ってはどうか。(高岡)
- △研究主題を焦点化して進めていくときに、様々な能力をもった生徒がいる。ワークシート等を工夫し、スモールステップで取り組めるようにするなど、どの生徒も意欲的に参加できるような工夫を考えていけるとよい。(砺波)
- 生徒が読みたくなるような手紙や、返事を書きたくなるようなテーマなど、生徒の意欲を更に高めるような課題設定が必要である。(砺波)
- JTEの日本語使用率がやや多かった。英語で指示したことを、すぐ後に日本語で説明していたが、英語の指示だけでも十分伝わる場面もあった。ただし、必要に応じて英語と日本語を使い分け、生徒に安心感を与える必要もある。(砺波)
- 研究発表を聞いた後、協議する内容を焦点化して話し合いを行えばよかった。(砺波)

III

- 資料の製本は、それほど人数がいなくてもできたと思う。郡市部長全員が集まらなくて

も、授業校と発表校で行うか、授業校の近隣の郡市部長だけで行ってもよいように感じた。(新川)

- 今年では会場校での複数教科の開催はなかったが、呉羽中学校は毎年会場校になっており、負担が大きいように思う。各教科の持ち回りを確認し合い、重ならない工夫が必要ではないかと思う。(富山)
- 事前研修会A、Bがあるので、昨年も要望したが、9月の地区研究会「部会協議会」はあえて行う必要がないと思う。(富山)
- 会場郡市等は事前に決められているため問題はなかった。(高岡)
- 諸行事等も多い時期で、資料の編集及び事前研修会と日が重なり、日程調整が難しかった。(高岡)
- 砺波地区は砺波市、南砺市、小矢部市の3市でのローテーションとなっているが砺波や南砺に比べ、小矢部市は4校合わせて8名と少なく、英語科教員が1人しか配置されていない学校もある。人数比や学校比に合わせた見直しが必要である。(砺波)
- 大会に至るまでの流れについて理解不十分な状態で地区部長になったため、見通しがもてなかった。今後、部長を選出する際には地区内での連絡や調整等を年度前におくべきである。(砺波)
- 部会協議②の発表者が、勤務校の校務の都合などで一度も打合せできないまま大会当日を迎えた。本人のためにも、事前研修会には出席して会場の下見や必要な物品の打合せ等を会場校の担当者で行う必要がある。

IV

△研究授業をするときは、提案授業となるような新しい取組があるとよいのではないかと。昨年度の田尻先生の助言にもあったように、本文読解についての研究を進めていけばよいのではないかと。(新川)

- 授業後の部会協議をグループごとに行ったことで、話しやすかったが、全グループの発表をすることはできなかった。焦点を絞って話し合うべきだった。(新川)
- △協議が深まる議題を工夫して設定する必要がある。(新川)
- △授業力向上のための講義では、授業ですぐ活用できそうなアイデアや助言をいただけたらうれしいです。(新川)
- 事前に配布されていた名簿と、当日実際に参加された会員の数に違いがあった。(新川)
- オリエンテーションの時間を設けず、紙上での案内とした。(高岡)
- 授業の視点が当日の受付で配布された。参加した先生からは、やはりオリエンテーションで授業者から直接授業の視点を聞いたかったという声があった。(高岡)
- 授業についての協議時間(部会協議①)がもう少し確保できるとよい。(高岡)
- 授業の開始時間をもう少し遅くしてはどうか。給食後、生徒を完全に下校させてから会場校に向かうのには時間的に厳しい日程であった。(高岡)
- △研究協議は、グループでの協議、各グループからの発表という流れで行ったが、各グループからの意見や提案をもとに、さらに協議を深める時間がなかった。アドバイザーの講義がある場合は難しいかもしれないが、時間確保も含めて研究授業後の協議会の持ち方を工夫改善していきたい。(高岡)

V

△研究発表もよいが、参加型のワークショップで、実践例を共有してみるのもよいと思う。(新川)

- 有意義な時間を過ごせました。この日の夕方、大型書店の「先生向け書籍」のコーナーで、会員の姿を複数見かけました。この日の感動と興奮を大切にすると前向きな教師集団であり続けたい。(新川)
- 富山市英語部会は100人以上であるため、授業研究には3クラス開催の必要がある。今年度もいろいろな事情がありながらも、無理に開催していただいた。対応できる学校に限られてくるため、将来的には複数会場が必要になる可能性もある。(富山)

<道徳部会>

I

【東部地区】

- ・3学年とも授業が行われていてよかった。
- ・授業にロールプレイ(1年)、心情直線(2年)、BGM(3年)を取り入れており、資料に入り込みやすく効果的だった。
- ・協議会1で付箋を使ったフリーカード法を少人数グループで行ったことで、若手教員が質問や発言をしやすかったり、話し合いが深まったりした。
- ・協議会においてフリーカード法で話し合うことは授業者の財産となるのでよい。

【西部地区】

- ・3学年とも授業が行われていてよかった。

- ・同じ資料で実践された先生方から、実践を踏まえた意見が出て協議が深まった。
- ・発表することが苦手な生徒に対して付箋紙やホワイトボードを利用する方法はよかった。
- ・教師と生徒の1対1対話ではなく、生徒同士が対話で考えを深め合うために教師の発言をできるだけ少なくし、生徒が考える時間を十分にとっていたのがよかった。

II

【東部地区】

- ・生徒と教師のやりとりだけでなく、生徒同士のやりとりの場面を多くするとよい。
- ・グループで話し合うこともいいが、自分の考えをしっかりとめさせるためにも一人で考える時間を十分にとってやればよいのではないかと。

【西部地区】

- ・一人一人の考えに対して切り返しの発問や補助発問等を入れて生徒の考えを深めていく必要があるのではないかと。
- ・「どうして」ではなく「どうしてそう考えたの」という切り返しの仕方がよいのではないかと。

III

資料の編集及び事前研修会

- ・事前研修会に授業者が不在だったため、授業者の意図が分からなかったり検討した内容が授業者に伝わらなかったりした。
- ・事前研修会で話し合ったことを指導案に生かすために指導案完成までのプロセスを見直すことが必要なのでは。

資料の製本や配付 等

- ・資料分析したものを指導案と一緒に配布する。

IV

研究協議について

- ・協議会1は時間が短く意見が単発のものとなり深まりがなかった。多くの意見や助言を得るためにもう少し時間を増やした方がよい。
- ・東部地区では時間がなく、それぞれの部会で話し合われたことをシェアすることができなかった。
- ・西部地区ではグループ別協議は人数が15人～16人と多く意見が出にくかった。

授業力向上のためのアドバイザー講義

- ・授業力向上アドバイザーの横山先生の話が、教科化に向けての取組の必要性や資料分析の仕方などとても参考になった。時間が短かったので十分な話を聞くことができなかった。
- ・会員が毎年変わるので、講義が毎年聞けるとよい。聞いた者が学校に持ち帰って研修の場で広めるようにするためにも毎年聞きたい。

V

V 各研究部会独自の意見や要望

- ・道徳の教科化に向けて、教科化と評価の仕組みを理解し、授業力の向上を目指した研修を行う必要がある。
- ・道徳の評価方法についての研修を深める必要がある。
- ・道徳的価値の理解や資料分析の仕方などについての講義があるとよい。

<特別活動部会>

I

◇ 東部地区

- ・生徒が上手に司会をすることによって、他の生徒はスムーズに議題に沿った意見を交換することができた。
- ・意見が対立したり生徒が迷ったりしている時に教師の一言で学級の雰囲気が良い方向に向かった。
- ・導入部分に映像を利用したことで目指す姿をイメージすることができ、生徒の意欲を高めたり、活動を理解したりする上で効果的であった。
- ・各学年の段階に応じた単元を取り上げ、研究主題に沿った話し合い活動が行われていた。
- ・生徒はしっかりと理由も付けて発言しており、これまでの指導の成果が現れていた。
- ・小学校で行われている学級活動の成果を踏まえることや、意見を出し合う、比べ合う、分かり合うことが大切である。
- ・指導者には、発言の整理、合意形成、折り合いの付け方等についての支援が求められる。しかし、話しすぎず、子供が決定する場を保障することが大切である。
- ・話し合う議題が生徒の実態を踏まえ、必要感や切迫感を感じさせることが大切である。それを踏まえて、大切にしたい価値や話し合いの柱を明確にしておくことが重要である。
- ・部会協議□では、4名程度のグループで付箋を使って協議したことで、より積極的に協議に参加できた。
- ・部会協議□では富山市中教研特別活動部会による学級活動模擬授業を行った。その後の協議では、学級活動で大切にすべきことを次のようにまとめた。
 - 指導者も生徒も「どのような学級にしたいか」についての共通理解
 - 生徒の意見を整理する助言
 - 折り合いを付けさせる助言
 - 採決の際、採決の了承

- 生徒主体の活動
- 学級活動後、よかった点について評価
- 次も話し合いをしたいと思える雰囲気づくり
- ・模擬授業で生徒の立場に立って考え、生徒の気持ちや思いを感じ取ることができた。また、教師の効果的な言葉かけやアドバイス、何に気を配るかなどを考えるよい機会となった。

◇ 西部地区

- ・アンケートによる実態把握が適切だった。
- ・パート別、班別、学級全体と段階的に話し合いを進めさせたことが、話し合いの活性化に効果を与えていた。
- ・ランキングの活動は、根拠を明確にした話し合い活動に有効だった。
- ・授業の取り組み方に関するアンケート結果を提示することにより、話し合いの必要性が感じられた。
- ・自分たちの問題点について実感をもたせるためにロールプレイによってそれぞれの立場を体験させたことは、話し合いを活性化させたり解決策を練り上げようとしたりする意欲を高めるのに効果があった。
- ・ロールプレイや話し合いの進め方の手順を書いた紙を用意するなど、準備が丁寧にされていたので大変スムーズだった。
- ・最後の場面で、教師の心のこもった話を生徒は真剣に聴いていた。
- ・部会協議はワークショップ形式で絞られた視点について話し合ったので、参加者全員の意見が吸い上げられ、協議が活発に行われた。

II

◇ 東部地区

- ・映像を通してメッセージを直接伝えるのではなく、生徒に感じ取らせる必要がある。どこまで教師が語るかが課題。
- ・個人の今後の目標は、全体の場で発表せずに終わってもよかったのではないか。
- ・話し合いの焦点を絞り、何のための話し合いか生徒に問題意識をもたせ、全体における合意の必要性を意識付けておく必要がある。
- ・発言の整理や合意形成のための助言など話し合いの舵取り役をしていく場面がもっとあってよい。
- ・部会協議□では3部会に分かれたが、参加人数に偏りがあった。事前に調整しておく必要がある。

◇ 西部地区

- ・アンケート内容については、話し合う内容に即しているか吟味する必要がある。
- ・ランキング作りが目的化し、真の目的が生徒の中に内面化されるまでに至っていないかった。
- ・板書が問題と学習課題が切り離されていた。本時のゴールが生徒にはっきりと見えるようにするか、最初に授業の目的や教師の思いを生徒に伝える必要がある。
- ・生徒の話し合いにどのように教師が関わっていくか課題が残った。
- ・話し合い活動に参加できない生徒のために、司会者の指導や教師の介入の仕方に工夫が必要である。
- ・話し合い活動の前に考えを書く時間が必要だった。
- ・話し合い活動では、集団決定をするのか、自己決定をするのかをはっきり生徒に伝える必要がある。
- ・グループの人数が多く、話し合いに参加できない生徒がいたので、グループ編成に工夫が必要である。
- ・事後協議のもち方について工夫が必要である。

III

◇ 東部地区

- 1 会場郡市、会場校の決定 ※特になし
- 2 地区研究会
 - ・事前に授業者が市特活部会や幹事会、指導助言者に意見を聞く機会があったのはよかった。
- 3 資料の編集及び事前研修会 ※特になし
- 4 資料の製本や配布 等
 - ・当日の授業内容が指導案と異なっていた。資料はメールで配布、各校で印刷という形にできないか。

◇ 西部地区

- 1 会場郡市、会場校の決定 ※特になし
- 2 地区研究会 ※特になし
- 3 資料の編集及び事前研修会
 - ・指導案は地区での検討会を経て指導主事に見ていただく方がよい。直しにくくなるのではないかと指導主事より指摘された。
 - ・事前研修会で検討を重ね、課題解決のためのよりよい手段にたどり着くことができた。
- 4 資料の製本や配布 等
 - ・授業者が資料の配付をしていたが、配付は郡市部長が手配するべきではないか。

IV

◇ 東部地区

1 運営分担や日程 ※特になし

2 研究授業 ※特になし

3 研究発表 ※なし

4 研究協議

- ・今後もアドバイザー講義が隔年で行われるのであれば、講義がない地区の部会協議の持ち方について、いくつかの案を出しておいた方がよい。
- ・部会協議では、3会場に分かれるが人数が均等にならなかった。また、協議時間をもう少し長く取ることができればよかった。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義 ※なし

◇ 西部地区

1 運営分担や日程

- ・会場校内に、授業会場や競技会場への案内の掲示があるとよかった。
- ・多くの地区が10月最終週末に学習発表会が行われるので、10月初旬か、11月初旬にできないか。
- ・当日準備物に打合せと食い違いがあったので、部会責任者は会場校担当者と打合せを密にすべきであった。
- ・授業記録担当者との連絡がうまくできず、違う部会の記録をしていた。

2 研究授業

- ・事前に行ったアンケートに関する資料があればよかった。
- ・両方の授業を参観したかった。
- ・記録用の机があるとよい。

3 研究発表 ※なし

4 研究協議

- ・授業者から自評があるとよい。
- ・時間が短く十分に協議できなかった。
- ・付箋を用いた協議の仕方について、紙面だけでなくオリエンテーションが必要だった。
- ・拡大した指導案に付箋を貼ったが、協議に活かされなかったグループがあった。司会者の打合せを密にすべきだった。
- ・1つの協議会をさらに2つに分け、別の視点で協議したが、指定された視点以外のことについても協議したかった。
- ・2つにグループを分けたのは多くの人の意見を聞くのにはよかったが、指導案に即して時系列で付箋を貼らせるのであれば、グループごとに課題を提示しない方がよい。

5 授業力向上のためのアドバイザー講義

- ・内容が多く早い展開だったので、ついていけない部分があった。
- ・質問の時間が欲しかった。
- ・スライドの配付資料があればよかった。
- ・講義を聴く時は座席は前向きの方がよい。

V

- ・IVにも書いたが研究大会開催日を10月初旬や11月初旬に設定することはできないだろうか。学習発表会や合唱コンクール等の学校行事が実施される週と重なる学校も多いと思われる。
- ・アドバイザー講義のある地区では研究授業の部会協議の時間が短くなる。また、講義のない地区では部会協議の持ち方に工夫が必要である。

<特別支援教育部会>

I

- ・2台のビデオを通して、授業中の子どもの様子をモニター画面で見ることができた。一人だけの生徒に大きなプレッシャーを与えず、生徒は授業に集中できたと思う。(東部)
- ・集中が続かない生徒に視覚に訴える教材の提示は効果的であった。動きのある映像資料は理解の乏しい生徒にはわかりやすいものとなっていた。(東部)
- ・指導計画の短期目標に対する指導の手立てを具体的かつ明確にしたことで生徒の教育的ニーズに応じた指導が実践された。(東部)
- ・在籍生徒が1名のため、生徒への心理的負担を考えて、研究授業を事前のビデオで撮影し、生徒が普段通りに取り組んでいたのがよかった。(西部)
- ・手順を示す写真と言葉のカードを学習時に手元に置いて確認できていた。(西部)
- ・協議会場を、近くの公共施設にして、全会員が1つの場所で研修できた。(西部)
- ・指導案に「個別の指導計画」が位置づけられていてよかった。目標と実態、指導上の手立てがわかりやすく載っているのがよかった。(西部)

II

- ・今後は、モニターによる授業参観を基本とするべきではないか。(東部)
- ・撮影の角度やボリュームなど撮影する側の技量や設備が問われる。教師の指示に対する反応や生徒のつぶやきがわかりにくい。(東部)
- ・生徒の生の姿と、日々生徒と向き合い格闘している先生の現実を参観したい。(東部)
- ・生徒一人では、欠席や感情状態など不測の事態が発生するかもしれないので、授業公開が難しいが、ビデオによる研究会でよいのか。すでに終わった授業なので、何を協議すべきか分からない。(西部)
- ・多人数の中で交流していく力を身に付けていくための研究が必要ではないか。(西部)

- ・研究協議の時間設定を工夫して、協議の時間をもっととれるように、また、特別支援校の先生方も参加しているので、互いの意見交換ができればよい。(西部)

III

- ・地区主任が何度も遠くまで集まらなくてもよいようにしてほしい。
- ・資料の発送は特別支援担当者宛でお願いしたい。
- ・ビデオ撮り等、生徒の実態にあわせるために会員との日程調整が大変である。

IV

- ・部会協議会の協議題と内容が違っていた。教材や掲示物を持参した先生もおられたので、連絡してもらえばよかった。
- ・授業と発表を隔年にして、各校の取組について広く知る機会があってもよいのではないか。
- ・ビデオの編集は大変だろうが、ビデオを見る時間やポイントを考えて協議会を行う必要がある。意見交換の時間が短く、深まる協議ができなかった。
- ・評価について知りたかった。

V

- ・開催が教科と違う日になると、支援級の生徒を残したまま大会に行くことになるので、開催を教科と同じ日にならないか。(しかし、教科の研究に参加できなくなる)
- ・研究協議では各校の先生方との情報交換ができてよかったが、障害種別にグループ分けをした方がよかったのではないか。
- ・授業を中心に研究を進めていくことは大切だが、生徒への心理的な負担が大きい。中継ができればよいが、事例発表などで研究協議を進めることも検討してほしい
- ・通常の学級における特別な支援を要する生徒や支援級の生徒が参加する交流級での授業での支援方法についての研究協議をしてほしい。
- ・郡市部長について、「小矢部、砺波、南砺」と同じように「下新川、黒部、魚津」(合同で活動している地区)を代表1名にして欲しい。

<保健部会>

I ○研究発表

- ・「学習カード」や「チェックカード」等は生徒の意欲を高めるよう工夫されており、自校でも参考にしたいと思えるような資料であった。
- ・実態調査から実践に至るまで、学校内、家庭、地域を巻き込んだ活動の様子が伝わってきた。
- ・PDCAサイクルや自己効力感、生徒が自ら決め行動に移す様子が発表され、参考になった。

○研究協議

- ・提案発表と同じような実践をした地区の研究内容に触れながら協議を進めることができ、充実した研修であった。
- ・指導講話では、提案発表や各地区の実践へのアドバイスや評価をもっと盛り込んでいただけたらよかった。

○授業力向上のためのアドバイザー講演

- ・講演の内容が中教研保健部会の取組の方向性を示唆する内容であり、大変参考になった。
- ・子供の内面、環境への配慮、行動変容の段階など難しい理論を分かりやすく教えていただいた。

II・授業力向上の講演がある年は部会協議の時間が短くなるため、講演の時間配分や、部員からの質問等を事前に把握する手立てなど、効率的な運営が必要である。

- ・部会協議1では、各地区の取組の紹介だけではなく、研究主題に迫る内容の協議ができればよい。

III○ 会場郡市、会場校の決定

- ・婦中ふれあい館が部員が全県下から集まりやすいことや準備面で都合がよいので、会場としてこのまま続けて使用していきたい。

IV・提案発表や講演の際、スクリーンの下が見えにくかった。

- ・時間が押している場面がいくつかあり、部会協議の時間がさらに短くなり、閉会も遅くなった。

V・婦中ふれあい館は研究大会日に他の団体が主催する行事と日程が重なる場合があり、希望する日時で使用できない時がある。そのような場合、隣の速星公民館で開催することも視野に入れていけるとよい。

- ・各地区の研究内容や資料等を電子媒体でやりとりできるようになると有効に活用できる。